

平成10年度厚生科学研究費補助金  
エイズ対策研究事業

# HIV 感染症の疫学研究

研究報告書

平成 11 年 3 月

主任研究者

木 原 正 博

平成10年度厚生科学研究費補助金  
エイズ対策研究事業

# HIV 感染症の疫学研究

研究報告書

平成11年 3 月

主任研究者

木 原 正 博

平成10年度「HIV感染症の疫学研究」班の構成

NO	グループ名	分担研究者		研究内容
1	将来予測・推計	橋本修二	東京大・医・疫学・生物統計学	・推計・将来予測(モデル解析を含む)
2	国内疫学情報解析	中村好一	自治医大・医・公衆衛生学	・厚生省サーベイランスデータ及び国内HIV疫学関連データの詳細な解析
3	国際疫学情報解析	鎌倉光宏	慶応大・医・公衆衛生学	・国際的なHIV/AIDS疫学情報の収集と解析
4	医療情報解析	木村博和	横浜市大・医・公衆衛生学	・HIV/AIDS関連医療費調査、医療費の将来予測
5	HIV感染者/AIDS患者 I(臨床疫学)	松本孝夫	順天堂大・医・総合診療部	・感染者・患者の生存分析・感染者・患者の属性、感染経路等の分析
6	HIV感染者/AIDS患者 II(パートナーリレーションシップ)	松田重三	帝京大・医	・感染者・患者の行動疫学(パートナーリレーションシップ)
7	MSM I(東京等)	市川誠一	神奈川衛生短期大衛生技術科	・関東・関西地方のMSMの知識・態度・行動調査、感染率調査、予防介入方法の開発・評価、日本及び米国のNGOとの共同による行動学的、社会学的調査
8	MSM II(中部地方)	磯村思无	名古屋大・医・国際保健医療学	・中部地方のMSM関連施設利用者の血清疫学的、行動学的調査
9	滞日外国人	木原正博	神奈川県立がんセンター臨床研究所	・滞日外国人の知識・情報・行動調査、血清疫学的調査、効果的予防介入方法の開発・評価。国際共同研究
10	薬物乱用・依存者に関する研究	和田 清	国立精神・神経センター精神保健研究所	・全国関連病院及び施設のネットワークによるHIV/性感染症(STD)の血清疫学的、各種行動の年次動向。セルフヘルプグループとの共同による予防介入方法の開発・評価
11	STDクリニック受診者 I(血清疫学的モニタリング)	熊本悦明	札幌医科大・医・泌尿器科	・全国のSTDクリニックネットワークによる、受診者のHIV/STD感染率の年次動向の把握
12	STDクリニック受診者 II(行動科学)	大里和久	大阪府万代診療所	・STDクリニック受診者の行動の年次動向、行動特性に関する研究
13	風俗関連施設等顧客	大山泰雄	新宿区衛生部	・ラブホテル等の顧客のコンドーム使用状況および体液中HIV抗体陽性率の年次動向の調査
14	血清・遺伝子疫学	今井光信	神奈川県衛生研究所ウイルス部	・全国の検査機関におけるHIV抗体検査受検動向の年次推移、HIV抗体陽性率の年次動向、検査技術の標準化、国内HIV感染陽性例のサブタイプ分析、薬剤耐性株の分離
15	献血者、妊婦等	清水 勝	東京女子医科大輸血部	・全国の献血者、妊婦等のHIV抗体陽性率の年次動向
16	母子感染	喜多恒和	防衛医大付属病院分娩部	・全国の母子感染例の個別把握、わが国における母子感染防止のためのガイドラインの検討
17	行動科学 I	広瀬弘忠	東京女子大・文・心理学	・全国の確率サンプルを用いた行動科学的調査の定期的実施、国際比較
18	行動科学 II	木原正博	神奈川県立がんセンター臨床研究所	・各種社会グループのHIV/AIDS関連知識・性行動・性意識に関する調査
19	カウンセリング体制	兒玉憲一	広島大学保健管理センター	・カウンセリングガイドラインの作成、全国拠点病院におけるカウンセリングの実施状況・受入環境に関する全国的調査

## 平成10年度厚生省 HIV疫学研究班構成名簿

1999年3月現在

(注)氏名横の\*印は所属グループが複数の場合

	氏名	所 属	職 名	〒	住 所	電 話	内 線	FAX	e-mail
班 長	木原 正博	神奈川県立がんセンター臨床研究所研究第三科	技幹	241-0815	横浜市旭区中尾1-1-2	045-391-5761	342	045-366-3157	
代表顧問	山崎 修道	国立感染症研究所	所長	162-8640	新宿区戸山1-23-1	03-5285-1111	2000	03-5285-1193	
顧 問	西岡久壽彌	(財)ウイルス肝炎研究財団	理事	113-0033	文京区本郷3-2-15新興ビル7F	03-3813-4088		03-3813-4796	
		(財)エイズ予防財団	理事	279-0042	自)浦安市東野3-36-11	0473-54-7736		0473-54-7786	
	山形 操六	(財)エイズ予防財団	専務理事	105-0001	港区虎の門1-23-11寺山パシフィックビル4F	03-3592-1181		03-3592-1182	
	柳川 洋	自治医科大学公衆衛生学	教授	329-0498	栃木県河内郡南河内町薬師寺3311-1	0285-44-2111		0285-44-7217	
倫理アドバイザー	浅井 篤	京都大学医学部附属病院総合診療部	助手	606-8397	京都市左京区聖護院川原町54	075-751-4246		075-751-4211	
将来予測グループ									
	橋本 修二	東京大学医学部健康科学・看護学専攻疫学	助教授	113-0033	文京区本郷7-3-1	03-3812-2111	3519	03-3814-2779	hashimoto@epistat.m.u-tokyo.ac.jp
	福富 和夫	国立公衆衛生院	特別研究員	177-0051	自)練馬区関町北3-50-8	03-3920-4943		03-3920-4943	
国内疫学情報解析グループ									
	中村 好一	自治医科大学公衆衛生学	助教授	329-0498	栃木県河内郡南河内町薬師寺3311-1	0285-58-7338		0285-44-7217	nakamuyk@jichi.ac.jp
	城所 敏英	中野区保健衛生部保健計画課	企画調整主査	164-8501	中野区中野4-8-1	03-3389-1111	3722	03-3228-5660	
	松山 裕	東京大学医学部健康科学・看護学専攻疫学	助手	113-0033	文京区本郷7-3-1	03-3812-2111	3520	03-3814-2779	
国際疫学情報解析グループ									
	鎌倉 光宏	慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学	講師	160-8582	新宿区信濃町35	03-3358-1955		03-3359-3686	mkamakura@po.ijnet.or.jp
	梅田 珠実	国立感染症研究所 国際協力室	室長	162-8640	新宿区戸山1-23-1	03-5285-1111	2910	03-5285-1239	umedat@nih.go.jp
医療情報解析グループ									
	木村 博和*	横浜市立大学医学部公衆衛生学教室	助手	236-0004	横浜市金沢区福浦3-9	045-787-2610		045-787-2609	hkim@med.yokohama-cu.ac.jp
	木村 哲	東京大学医学部附属病院感染制御部	教授	113-8655	文京区本郷7-3-1	03-3815-5411		03-5800-8796	skimura-tky@umin.u-tokyo.ac.jp
	市川 誠一*	神奈川県立衛生短期大学衛生技術科	助教授	241-0815	横浜市旭区中尾1-5-1	045-361-6141	551	045-362-8785	BOX00773@nifty.ne.jp
	岡 慎一*	国立国際医療センター エイズ治療・研究開発セン	部長	162-8652	新宿区戸山1-21-1	03-5273-5193		03-5273-5193	oka@imacj.hosp.go.jp
HIV感染者/AIDS患者 Iグループ									
	松本 孝夫*	順天堂大学医学部総合診療科	助教授	113-8421	文京区本郷2-1-1	03-3813-3111	3708	03-5802-1190	matumoto@med.juntendo.ac.jp
	松田 重三*	帝京大学薬学部臨床生化学講座	教授	199-0195	津久井郡相模湖町寸沢嵐	042-685-3755		042-685-2577	jmatsuda@pharm.teikyo-u.ac.jp
	溝上 雅史	名古屋市立大学医学部付属病院輸血部	助教授	467-8601	名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄1	052-853-8216		052-852-0849	mizokami@med.nagoya-cu.ac.jp
	大里 和久*	大阪府立万代診療所	所長	558-0056	大阪市住吉区万代東3-1-45	06-6693-7660		06-6693-7501	xoosato@iph.pref.osaka.jp
	桜井 賢樹*	(財)エイズ予防財団 国際協力部兼研修研究部	部長	105-0001	港区虎ノ門1-23-11寺山パシフィックビル4F	03-3592-1181		03-3592-1182	jjap@mbinfoweb.or.jp
	永井 正規	埼玉医科大学公衆衛生学	教授	350-0495	埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38	0492-76-1169		0492-95-9307	mnagai@saitama-med.ac.jp
	岡 慎一*	国立国際医療センター エイズ治療・研究開発セン	部長	162-8655	新宿区戸山1-21-1	03-5273-5193		03-5273-5193	oka@imacj.hosp.go.jp
	増田 剛太	東京都立駒込病院感染症科	部長	113-0021	文京区本駒込3-18-22	03-3823-2101	2303	03-3824-1552	
	中村 哲也	東京大学医科学研究所感染免疫内科	講師	108-8639	港区白金台4-6-1	03-5449-5338		03-5449-5427	tnakamur@ims.u-tokyo.ac.jp
HIV感染者/AIDS患者 IIグループ									
	松田 重三*	帝京大学薬学部臨床生化学講座	教授	199-0195	津久井郡相模湖町寸沢嵐	042-685-3755		042-685-2577	jmatsuda@pharm.teikyo-u.ac.jp
	伊藤 章	横浜市立大学医学部附属病院臨床検査部	助教授	236-0004	横浜市金沢区福浦3-9	045-787-2720		045-786-0392	aito@med.yokohama-cu.ac.jp
	高松 純樹	名古屋大学医学部輸血部	助教授	466-0064	名古屋市昭和区鶴舞町65	052-744-2652		052-741-2656	jtakamatsu@med.nagoya-u.ac.jp
	松本 孝夫*	順天堂大学医学部総合診療科	助教授	113-8421	文京区本郷2-1-1	03-3813-3111	3702	03-5802-1190	matsumoto@med.juntendo.ac.jp
MSM Iグループ									
	市川 誠一*	神奈川県立衛生短期大学衛生技術科	助教授	241-0815	横浜市旭区中尾1-5-1	045-361-6141	551	045-362-8785	BXN00773@nifty.ne.jp
	木原 正博*	神奈川県立がんセンター臨床研究所研究第三科	技幹	241-0815	横浜市旭区中尾1-1-2	045-391-5761	342	045-366-3157	
	大屋日登美*	神奈川県立衛生短期大学衛生技術科	助手	241-0815	横浜市旭区中尾1-5-1	045-361-6141	551	045-362-8785	BXN00773@nifty.ne.jp
	木原 雅子*	CAPS International Program, UCSF	リサーチ・コンサルタント	241-0815	横浜市旭区中尾1-1-2 がんセンター研究第三科	045-391-5761	342	045-366-3157	
	今井 光信*	神奈川県衛生研究所ウイルス部	部長	241-0815	横浜市旭区中尾1-1-1	045-363-1030	511	045-363-1037	
	木村 博和*	横浜市立大学医学部公衆衛生学教室	助手	236-0004	横浜市金沢区福浦3-9	045-787-2610		045-787-2609	hkim@med.yokohama-cu.ac.jp
	大山 泰雄*	新宿区衛生部/新宿保健所	部長/所長	160-0023	新宿区西新宿7-5-8	03-3369-7151		03-3363-7933	
	守尾 輝彦*	新宿保健所 衛生課環境衛生	主査	160-0023	新宿区西新宿7-5-8	03-3369-7151	217	03-3363-7933	
	生島 嗣*	ぶれいす東京		169-0075	新宿区下落合1-10-7 テラス高田馬場203	03-3361-8964		03-3361-8835	ptoyo@gender.ne.jp
	砂川 秀樹	ぶれいす東京		169-0075	新宿区下落合1-10-7 テラス高田馬場203	03-3361-8964		03-3361-8835	ptoyo@gender.ne.jp
	篠原 欣介	ぶれいす東京		169-0075	新宿区下落合1-10-7 テラス高田馬場203	03-3361-8964		03-3361-8835	ptoyo@gender.ne.jp
	鬼塚 直樹	CAPS International Program, UCSF		74	New Montgomery St. Suite 600, San Francisco, CA 941	415-597-9144		415-597-9213	www.caps.ucsf.edu/caps web
	菅原 智雄	動くゲイとレスビアンの会(アカー)		164-0012	中野区本町6-12-11石川ビル2F OCCUR内	03-3383-5556		03-3229-7880	occur@Kt.rim.or.jp
	風間 孝	動くゲイとレスビアンの会(アカー)		164-0012	中野区本町6-12-11石川ビル2F OCCUR内	03-3383-5556		03-3229-7880	occur@Kt.rim.or.jp

氏名	所属	職名	〒	住所	電話	内線	FAX	e-mail
河口 和也	動くゲイとレスビ안의会(アカー)		164-0012	中野区本町6-12-11 石川ビル2F OCCUR内	03-3383-5556		03-3229-7880	occur@Kt.rim.or.jp
高山 佳洋	大阪府環境保健部保健予防課	課長	540-8570	大阪市中央区大手前2-1-22	06-6941-0456		06-6944-6029	
鬼塚 直樹	HIVと人権・情報センター大阪支部		573-0027	枚方市大垣内町3-3-5 石田ビル2F	0720-43-2041		0720-43-4116	
橋 とも子	東京都衛生局医療福祉部エイズ対策室	課務担当係長	163-8001	新宿区西新宿2-8-1 第一本庁舎27F	03-5320-4487	35-347	03-5388-1432	ttomoko@tokyo-eiken.go.jp
山口 剛	東京都南新宿検査・相談室	室長	151-0053	渋谷区代々木2-7-8 東京南新宿ビルディング3F	03-3377-8122		03-3377-0821	
日高 廣晴	筑波大学大学院体育研究科健康教育学教室		305-8574	つくば市天王台1-1-1	0298-53-2597		0298-53-2597	
MSM IIグループ								
磯村 思无	名古屋大学医学部国際保健医療学	教授	466-8550	名古屋市昭和区鶴舞町65	052-744-2108		052-744-2114	sisomura@med.nagoya-u.ac.jp
山本 直彦*	名古屋大学医学部国際保健医療学	助教授	466-8550	名古屋市昭和区鶴舞町65	052-744-2110		052-744-2114	nyama@med.nagoya-u.ac.jp
森下 高行	愛知県衛生研究所 ウイルス部	主任研究員	462-8576	名古屋市北区辻町字流7-6	052-911-3111		052-913-3641	morisita@c-d-k.or.jp
佐藤 克彦	愛知県衛生研究所 ウイルス部	技師	462-8576	名古屋市北区辻町字流7-6	052-911-3111		052-913-3641	ksato@c-d-k.or.jp
滞日外国人グループ								
本原 正博*	神奈川県立がんセンター臨床研究所研究第三科	技幹	241-0815	横浜市旭区中尾1-1-2	045-391-5761	342	045-366-3157	
市川 誠一*	神奈川県立衛生短期大学衛生技術科	助教授	241-0815	横浜市旭区中尾1-5-1	045-361-6141	551	045-362-8785	BXN00773@nifty.ne.jp
今井 光信	神奈川県衛生研究所ウイルス部	部長	241-0815	横浜市旭区中尾1-1-1	045-363-1030	511	045-363-1037	
岩井 エリザ	(財)エイズ予防財団	リサーチ・レジデン	241-0815	横浜市旭区中尾1-1-2 がんセンター研究第三科	045-391-5761	342	045-366-3157	elisaai@beige.ocn.ne.jp
大屋 日登美*	神奈川県立衛生短期大学衛生技術科	助手	241-0815	横浜市旭区中尾1-5-1	045-361-6141	551	045-362-8785	BXN00773@nifty.ne.jp
大山 泰雄*	新宿保健所	所長	160-0023	新宿区西新宿7-5-8	03-3369-7151		03-3363-7933	
木原 雅子*	CAPS International Program, UCSF	リサーチ・コンサルタント	241-0815	横浜市旭区中尾1-1-2 がんセンター研究第三科	045-391-5761	342	045-366-3157	
小林 米幸	小林国際クリニック	院長	242-0004	大和市鶴間3-5-6-110	0462-63-1380		0462-63-0919	
沢崎 康*	(財)エイズ予防財団	主任研究員	105-0001	港区虎の門1-23-11 寺山パシフィックビル4F	03-3592-1181		03-3592-1182	
清水 源之	清水医院	院長	300-1175	土浦市中荒川沖町13-1	0298-42-5467		0298-43-1152	
杉本 和敏	江東微生物研究所東北中央研究所 検査部	部長	970-1144	福島県いわき市好間工業団地4-18	0246-36-7111	151	0246-36-7450	
田口 誠治	日本大学医学部病理学教室	助手	173-0032	板橋区大谷口上町30-1	03-3972-8111	2256	03-3972-8163	
ニクン・ジッタイ	東京大学大学院医学系研究科国際地域保健学	客員研究員	113-0033	文京区本郷7-3-1	03-3812-2111	3322	03-5800-6851	sidaiht@m.u-tokyo.ac.jp
早川 和男	新宿保健所	予防課長	160-0023	新宿区西新宿7-5-8	03-3369-7151		03-3363-7933	
IDU I (入院患者)グループ								
和田 清	国立精神・神経センター精神保健研究所	部長	272-0827	市川市国府台1-7-3	047-375-4750		047-375-4764	kwada@ncnp-k.go.jp
石橋 正彦	十全病院	院長	816-0942	福岡県大野城市中央1-13-8	092-581-1445		092-591-5258	
伊波 真理雄	東京足立病院	医員	121-0064	足立区保木間5-23-20	03-3883-6331			
前岡 邦彦	瀬野川病院	院長	739-0323	広島市安芸区中野東4-11-13	082-892-1055		082-892-1390	
分島 徹	都立松沢病院精神科	部長	156-0057	世田谷区上北沢2-1-1	03-3303-7211		03-3329-7586	
IDU II (施設入所者)グループ								
大橋 秀夫	法務省矯正局医療分類課	課長	100-0013	千代田区霞ヶ関1-1	03-3580-4111	2589	03-3591-3594	
STDクリニック受診者 I グループ								
熊本 悦明	札幌医科大学医学部泌尿器科	名誉教授	060-0061	札幌市中央区南1条西17丁目	011-611-2111	3475	011-612-2709	
塚本 泰司	札幌医科大学医学部泌尿器科	教授	060-0061	札幌市中央区南1条西17丁目	011-611-2111		011-612-2709	
根岸 杜吉	春日部市立病院	院長	344-0067	春日部市中央7-2-1	048-735-1261		048-734-2471	
小島 弘敬	日赤医療センター泌尿器科	部長	150-0012	渋谷区広尾4-1-22	03-3400-1311		03-3409-1604	
出口 孝	岐阜大学医学部泌尿器科	教授	500-8076	岐阜市司町40	058-265-1241	2281	058-265-9009	
大里 和久*	大阪府立万代診療所	所長	558-0056	大阪市住吉区万代東3-1-45	06-6693-7801		06-6693-7501	
守殿 貞夫	神戸大学医学部泌尿器科	教授	650-0017	神戸市中央区楠町7-5-1	078-341-7451	5780	078-341-8274	
碓井 亜	広島大学医学部泌尿器科	教授	734-0037	広島市南区霞1-2-3	082-257-5555		082-257-5244	
柏木 征三郎	九州大学医学部総合診療科	教授	812-0054	福岡市東区馬出3-1-1	092-642-5908		092-642-5916	
斎藤 泰	長崎大学医学部泌尿器科	教授	852-8102	長崎市坂本1-12-4	0958-47-2111		0958-49-7343	
大井 好忠	鹿児島大学医学部泌尿器科学教室	教授	890-0075	鹿児島市桜ヶ丘 8-35-1	0992-75-5111		0992-65-9727	
小川 由英	琉球大学医学部泌尿器科学教室	教授	903-0125	沖縄県中頭郡西原町字上原207	098-895-3331	2455	098-895-5090	
南 邦宏	札幌東豊病院産婦人科	部長	065-0017	札幌市東区北17条東15	011-704-3911		011-704-1391	
吉尾 弘	吉尾病院	院長	064-0808	札幌市中央区南8条西3	011-511-5564		011-511-5564	
STDクリニック受診者 II グループ								
大里 和久*	大阪府立万代診療所	所長	558-0056	大阪市住吉区万代東3-1-45	06-6693-7660		06-6693-7501	
丸山 治郎	あべの橋医院	院長	545-0052	大阪市阿倍野区阿倍野筋1-2-20	06-6628-2311		06-6622-2281	
大國 剛	大國診療所	所長	530-0057	大阪市北区曾根崎2-5-24 石見ビル3F	06-6312-8423		06-6312-9440	
木原 雅子*	CAPS International Program, UCSF	リサーチ・コンサルタント	241-0815	横浜市旭区中尾1-1-2 がんセンター研究第三科	045-391-5761	342	045-366-3157	

氏名	所属	職名	〒	住所	電話	内線	FAX	e-mail
風俗関連施設等顧客グループ								
大山 泰雄*	新宿区衛生部 兼)新宿保健所	部長/所長	160-0023	新宿区西新宿7-5-8	03-3369-7151		03-3363-7933	
守尾 輝彦*	新宿保健所 衛生課環境衛生	環境衛生監視	160-0023	新宿区西新宿7-5-8	03-3369-7151	217	03-3363-7933	
高橋 正実*	新宿保健所 衛生課環境衛生	環境衛生監視	160-0023	新宿区西新宿7-5-8	03-3369-7151	217	03-3363-7933	
村井 賢二	新宿保健所 衛生課環境衛生	環境衛生監視	160-0023	新宿区西新宿7-5-8	03-3369-7151	218	03-3363-7933	
遠山 直人	新宿保健所 衛生課環境衛生	環境衛生監視	160-0023	新宿区西新宿7-5-8	03-3369-7151	218	03-3363-7933	
田中 成行*	牛込保健所 衛生課環境衛生	環境衛生監視	162-0851	新宿区弁天町50	03-3260-6231	222	03-3260-6223	RXY03111@niftyserve.or.jp
油井 治文*	四谷保健所 衛生課環境衛生	環境衛生監視	160-0004	新宿区四谷4-17	03-3351-5161	26	03-3351-5166	
市川 誠一*	神奈川県立衛生短期大学衛生技術科	助教授	241-0815	横浜市旭区中尾1-5-1	045-361-6141	551	045-362-8785	BXN00773@nifty.ne.jp
大屋日登美*	神奈川県立衛生短期大学衛生技術科	助手	241-0815	横浜市旭区中尾1-5-1	045-361-6141	551	045-362-8785	BXN00773@nifty.ne.jp
木原 雅子*	CAPS International Program, UCSF	リサーチ・コンサルタント	241-0815	横浜市旭区中尾1-1-2	045-391-5761	342	045-366-3157	
木原 正博*	神奈川県立がんセンター臨床研究所研究第三科	技幹	241-0815	横浜市旭区中尾1-1-2	045-391-5761	342	045-366-3157	
今井 光信*	神奈川県衛生研究所ウイルス部	部長	241-0815	横浜市旭区中尾1-1-1	045-363-1030	245	045-363-1037	
近藤真規子	神奈川県衛生研究所ウイルス部	主任	241-0815	横浜市旭区中尾1-1-1	045-363-1030	245	045-363-1037	
血清・遺伝子疫学グループ								
今井 光信*	神奈川県衛生研究所ウイルス部	部長	241-0815	横浜市旭区中尾1-1-1	045-363-1030	514	045-363-1037	
木村 浩男	北海道立衛生研究所	所長	060-0819	札幌市北区北19条西12丁目	011-747-2211	230	011-736-9476	
横山 新吉	仙台市衛生研究所	所長	984-0002	仙台市若林区御町東2-5-10	022-236-7722	200	022-236-8601	
村田 明	茨城県衛生研究所	所長	310-0852	水戸市笠原町993-2	0292-41-6652		0292-43-9550	
水口 康雄	千葉県衛生研究所	所長	260-8715	千葉市中央区仁戸名町666-2	043-266-6723		043-265-5544	
後藤 敦	埼玉県衛生研究所疫学部	部長	338-0824	浦和市長久保639-1	048-853-6171		048-840-1041	
関根 大正	東京都立衛生研究所微生物部ウイルス研究科	科長	169-0073	新宿区百人町3-24-1	03-3363-3231	327	03-3363-3481	
仲野 仁忠	山梨県公害研究所	所長	400-0027	甲府市富士見1-7-31	0552-53-6721		0552-53-5637	
飯田 和質	福井県衛生研究所	所長	910-8551	福井市原目町39-4	0776-54-5630	100	0776-54-5630	
大石 功	大阪府立公衆衛生研究所	課長	537-0025	大阪市東成区中道1-3-69	06-6972-1321	402	06-6972-2393	
川村 隆	兵庫県立衛生研究所	所長	652-0032	神戸市兵庫区荒田町2-1-29	078-511-6581	30	078-531-7080	
池田 義文	広島市衛生研究所	所長	773-8650	広島市西区商工センター4-1-2	082-277-6575	200	082-277-0410	
石川 幸	広島県保健環境センター	所長	734-0007	広島市南区皆実町1-6-29	082-255-7131		082-252-1908	
井上 博雄	愛媛県立衛生研究所	所長	790-0003	松山市三番町8-234	089-931-8757		089-947-1262	
鈴木 康元	愛知県衛生研究所	所長	462-8576	名古屋市中区津島7-6	052-911-3111	326	052-913-3641	
千々和勝己	福岡県保健環境研究所ウイルス課	専門研究員	818-0135	太宰府市向佐野字迎田39	092-921-9945		092-928-1203	
武部 豊	国立感染症研究所エイズ研究センター 第1室	室長	162-8640	新宿区戸山1-23-1	03-5285-1111	2532	03-5285-1129	
木原 正博*	神奈川県立がんセンター臨床研究所研究第三科	技幹	241-0815	横浜市金沢区中尾1-1-2	045-391-5761	342	045-366-3157	
植田 昌宏	SRL研究所 ウイルス部	部長	192-0031	八王子市小宮町51	0426-48-4081	4250	0426-48-4041	
山中 烈次	日本赤十字社血液事業部	課長	105-0012	港区芝大門1-1-3	03-3438-1311		03-3459-1560	
佐藤 裕徳	国立感染症研究所エイズ研究センター 第1室	主任研究官	162-8640	新宿区戸山1-23-1	03-5285-1111	2532	03-5285-1129	
山本 直彦*	名古屋大学医学部国際保健医療学	助教授	466-8550	名古屋市昭和区鶴舞町65	052-741-2111	2055	052-744-2114	
速水 正憲	京都大学ウイルス研究所付属免疫不全ウイルス研究科	教授	606-8397	京都市左京区正聖護院川原町53	075-751-3982		075-761-9335	
塩田 達雄	東京大学医学部研究所 感染症内科	助教授	108-	港区白金台4-6-1	03-5449-5282		03-5449-5409	
加藤 真吾	慶応大学医学部微生物学教室	助手	160-8582	新宿区信濃町35	03-3353-1211	2692	03-5360-1508	
園田 俊郎	鹿児島大学医学部	教授	890-8520	鹿児島市桜ヶ丘8-35-1	099-275-5281		099-265-8164	
吉原なみ子	国立感染症研究所エイズ研究センター エイズ検査室	室長	162-8640	新宿区戸山1-23-1	03-5285-1111	2320	03-5285-1182	
飯田 暢子	東京都立駒込病院臨床検査科	医長	113-0021	文京区本駒込3-18-22	03-3823-2101	2348	03-3824-1552	
献血者・妊婦等グループ								
清水 勝	東京女子医科大学輸血科	教授	162-8666	新宿区河田町8-1	03-3353-8111	37408	03-5269-7472	katcan@pc4.so-net.ne.jp
関口 定美	北海道赤十字輸血センター	所長	063-0002	札幌市西区山の手2条2	011-613-6121		011-613-4131	sekiguchi@hokkaido.bc.jrc.or.jp
鈴木 達夫	(社)北里研究所病院研究部	部長	108-8642	港区白金5-9-1	03-5771-6147		03-3443-4298	suzuki-t@kitasato.or.jp
高橋 有二	東京都赤十字血液センター	所長	180-0023	武蔵野市境南1-26-1	0422-32-1100	300	0422-32-2685	
神谷 忠	愛知県赤十字血液センター	副所長	489-8555	愛知県瀬戸市南山口町539-3	0561-84-1131		0561-84-3912	
吉澤 浩司	広島大学医学部衛生学	教授	734-8551	広島市南区霞1-2-3	082-257-5160		082-257-5164	
母子感染グループ								
喜多 恒和	防衛医科大学校病院分娩部	助手	359-8513	所沢市並木3-2	042-995-1687		042-996-5213	kita@ndmc.ac.jp
井村 総一	都立広尾病院小児科	副院長	150-0013	渋谷区恵比寿2-34-10	03-3444-1181		03-3444-3196	
大久保秀夫	京都市立病院伝染病科/小児科	部長	604-8845	京都市中京区壬生東高田町1-2	075-311-5311		075-321-6025	
大場 悟	県西部浜松医療センター小児科	医長	432-8580	浜松市富塚町328	053-453-7111		053-452-9217	

氏名	所属	職名	〒	住所	電話	内線	FAX	e-mail
須藤 寛人	長岡赤十字病院産婦人科	部長	940-2101	長岡市寺島297-1	0258-28-3600		0258-28-9000	
高野 政志	防衛医科大学校 産婦人科	助手	359-0042	所沢市並木3-2	042-995-1678		042-996-5213	mastko@ndmc.ac.jp
高山 正秀	東京都立駒込病院小児科	医長	113-8677	文京区本駒込3-18-22	03-3823-2101		03-3824-1522	takayamnd-t@komagome-hospital.bunkyo.tokyo.jp
塚原 優己	旭中央病院産婦人科	医長	289-2511	千葉県旭市イ-1326	0479-63-8111		0479-60-1210	
土江 秀明	大阪大学微生物研究所 ウイルス感染制御分野	講師	565-0871	吹田市山田丘3-1	06-6875-2128		06-6875-3894	
戸谷 良造	国立名古屋病院 産婦人科	医長	460-0001	名古屋市中区三ノ丸4-1-1	052-951-1111		052-951-0664	
仲宗根 正	国立感染症研究所EIS研究センター	主任研究官	162-8640	新宿区戸山1-23-1	03-5285-1111	2737	03-5285-1183	nakasone@nih.go.jp
早川 智	日本大学医学部産婦人科学教室	講師	173-0032	板橋区大谷口上町30-1	03-3972-8111	2522	03-5285-1183	JAG08422@nifty.ne.jp
本多 三男	国立感染症研究所EIS研究センターEIS	グループ長	162-8640	新宿区戸山1-23-1	03-5285-1111	2737	03-5285-1183	mhonda@nig.go.jp
保田 仁介	京都市立医科大学付属病院 産婦人科	講師	602-0841	京都市上京区河原町通広小路上る梶井町468	075-251-5111		075-212-1265	
吉野 直人	国立感染症研究所EIS研究センター	研究生	162-8640	新宿区戸山1-23-1	03-5285-1111	2737	03-5285-1183	yoshino@nih.go.jp
行動科学 I グループ								
広瀬 弘忠	東京女子大学文理学部心理学	教授	167-8585	杉並区善福寺2-6-1	03-5382-6420		03-5382-6420	hirosekn@zem.twcu.ac.jp
内野 英幸*	長野県大町保健所	所長	398-0002	大町市大町1058-2	0261-22-5111		0261-23-2266	uchino@aisnet.or.jp
養輪 眞澄	国立公衆衛生院疫学部	部長	108-8638	港区白金台4-6-1	03-3441-7111		03-3446-7164	
木原 正博*	神奈川県立がんセンター臨床研究所研究第三科	技幹	241-0815	横浜市旭区中尾1-1-2	045-391-5761	342	045-366-3157	
石塚 智一	大学入試センター	教授	153-8501	目黒区駒場2-19-23	03-5478-1274		03-5478-1297	ishizuka@rd.dnc.ac.jp
岩永 俊博	国立公衆衛生院公衆衛生行政学部公衆衛生行	室長	108-8638	港区白金台4-6-1	03-3441-7111		03-3446-7194	iwanaga@iph.go.jp
尾崎 米厚	国立公衆衛生院疫学部感染症室	室長	108-8638	港区白金台4-6-1	03-3441-7111	251	03-3446-7164	osakiy@iph.go.jp
落合 賀津子*	神奈川県立衛生短期大学衛生看護科	助手	241-0815	横浜市旭区中尾町50-1	045-361-6141	3675	045-362-8785	
金森 雅夫	浜松医科大学 公衆衛生学	助教授	431-3124	浜松市半田町3600	053-435-2329		053-435-2330	kanamori@hama-med.ac.jp
木原 雅子*	CAPS International Program, UCSF	リサーチ・コンサルタント	241-0815	横浜市旭区中尾1-1-2県立がんセンター研究第三	045-391-5761	342	045-366-3157	
沢崎 康*	(財)エイズ予防財団	主任研究員	105-0001	港区虎の門1-23-11 寺山バンフィックビル4F	03-3592-1181		03-3592-1182	jfap@mb.infoweb.ne.jp
島崎 継雄	日本性科学情報センター	所長	101-0051	千代田区神田神保町3-11-4宝文館ビル6F	03-3288-5200		03-3288-5387	
杉森 伸吉	東京家政大学文学部心理教育学科	助教授	350-1398	狭山市福荷山2-15-1	0429-55-6976		0429-55-6976	pb02323@niftyserve.or.jp
土田 昭司	関西大学社会学部	教授	564-8680	吹田市山手町3-3-35	06-6368-0735		06-6368-0082	tsuchida@kansai-u.ac.jp
富田 庸子*	鎌倉女子大学心理学研究室	講師	247-8511	鎌倉市岩瀬1420	0467-44-7131		0467-44-7131	MHB03062@niftyserve.or.jp
仲尾 唯治	山梨学院大学 一般教養部 社会学社会病理学	教授	400-8575	甲府市西折2-4-5	0552-24-1349		0552-24-1384	nakao@ygu.ac.jp
中 菜穂子	東京工業大学社会理工学研究室	大学院生	152-8552	目黒区大岡山2-12-1	03-5734-2794			nakaune@rd.dnc.ac.jp
中瀬 克己	岡山市保健所	医療専門監	703-0914	岡山市鹿田町1-1-1	086-212-2600	5231	086-212-2641	eiro@ymail.at-med.or.jp
東 優子*	(財)エイズ予防財団	リサーチ・レジデント	105-0001	港区虎の門1-23-11 寺山バンフィックビル4F	03-3592-1181	351	03-3592-1182	yuko@mail.at-m.or.jp
宮原 時彦	浜松医科大学 公衆衛生学	大学院生	431-3124	浜松市半田町3600	053-435-2329		053-435-2330	miyahara@hama-med.ac.jp
山本 太郎*	長崎大学熱帯医学研究所 国際社会環境	助手	852-8523	長崎市坂本町1-12-4	0958-49-7865		0958-49-7867	CYP04070@niftyserve.or.jp
行動科学 II グループ								
木原 正博*	神奈川県立がんセンター臨床研究所研究第三科	技幹	241-0815	横浜市旭区中尾1-1-2	045-391-5761	342	045-366-3157	
木原 雅子*	CAPS International Program, UCSF	リサーチ・コンサルタント	241-0815	横浜市旭区中尾1-1-2県立がんセンター研究第三	045-391-5761	342	045-366-3157	
天野 恵子	東京水産大学保健管理センター	所長	108-0075	港区港南4-5-7	03-5463-0387		03-5463-0396	amano@tokyo-u-fish.ac.jp
木村 博和*	横浜市立大学医学部公衆衛生学教室	医師	236-0004	横浜市金沢区福浦3-9				hkim@med.yokohama-cu.ac.jp
富田 庸子*	鎌倉女子大学心理学研究室	講師	247-8511	鎌倉市岩瀬1420	0467-44-2111		0467-44-7131	MHB03062@niftyserve.or.jp
市川 誠一*	神奈川県立衛生短期大学衛生技術科	助教授	241-0815	横浜市旭区中尾1-5-1	045-361-6141	551	045-362-8785	BXN00773@nifty.ne.jp
落合 賀津子*	神奈川県立衛生短期大学衛生看護科	助手	241-0815	横浜市旭区中尾1-5-1	045-361-6141	3675	045-362-8785	
山本 太郎*	長崎大学熱帯医学研究所 国際社会環境	助手	852-8523	長崎市坂本町1-12-4	0958-49-7865		0958-49-7867	CYP04070@niftyserve.or.jp
喜多 恒和*	防衛医科大学校病院分院部	助手	359-8513	所沢市並木3-2	042-995-1687		042-996-5213	kita@ndmc.ac.jp
カウンセリング体制グループ								
兒玉 憲一	広島大学保健管理センター	教授	739-8511	広島県東広島市鏡山1-3-2	0824-24-6187		0824-24-6178	r740532@ipc.hiroshima-u.ac.jp
山形 操六	(財)エイズ予防財団	専務理事	105-0001	港区虎の門1-23-11 寺山バンフィックビル4F	03-3592-1181		03-3592-1182	
池上千寿子	ぶれいす東京	代表	169-0075	新宿区高田馬場4-30-23-203	03-3361-8964		03-3361-8835	ptokyo@gender.ne.jp
山中 京子	東京都衛生局医療福祉部EIS対策室	専門相談員	163-8001	新宿区西新宿2-8-1	03-5320-4487		03-5388-1432	
石原 美和	国立国際医療センター	看護支援調整官	162-8655	新宿区戸山1-21-1	03-5273-5418		03-3208-4244	ishihara@imej.acc.go.jp
乾 吉佑	専修大学文学部心理学科	教授	214-0033	川崎市多摩区東三田2-1-1	044-911-1001		044-900-7814	inui@senshu-u.ac.jp
鶴 光代	福岡教育大学保健管理センター	助教授	811-4192	福岡県宗像市大字赤間729-1	0940-35-1242		0940-35-1717	
山田 治	川崎医科大学 血液内科	助教授	701-0192	岡山県倉敷市松島577	086-462-1111		086-462-1199	osamuy@med.kawasaki-m.ac.jp
東 優子*	(財)エイズ予防財団	リサーチ・レジデント	105-0001	港区虎の門1-23-11 寺山バンフィックビル4F	03-3592-1181	351	03-3592-1182	yuko@mail.at-m.or.jp

氏名	所属	職名	〒	住所	電話	内線	FAX	e-mail
森田 眞子	(財)エイズ予防財団 業務部業務課	主任	105-0001	港区虎の門1-23-11 寺山パシフィックビル4F	03-3592-1181		03-3592-1182	mmorita@amsmed.or.jp
松本 智子	慶應義塾大学感染クリニック	臨床心理士	160-8582	新宿区信濃町35	03-3353-1211		03-3353-1905	
磯本 昭彦	北里大学病院精神神経科	臨床心理士	228-0829	相模原市北里1-15-1	0427-78-8182			
高田知恵子	群馬社会福祉短期大学社会福祉学科	助教授	371-0823	群馬県前橋市川曲191-1	027-253-0294		027-254-0294	
生島 嗣*	ぶれいす東京	営委員長	169-0075	新宿区高田馬場4-30-23-203	03-3361-8964		03-3361-8835	ptokyo@gender.ne.jp
徐 淑子	広島大学歯学部予防歯科学講座	助手	734-0037	広島市南区霞1-2-3	082-257-5652		082-257-5650	sookja@ue.ipc.hiroshima-u.ac.jp
斉藤 祐治	ぶれいす東京		169-0075	新宿区高田馬場4-30-23-203	03-3361-8964		03-3361-8835	ptokyo@gender.ne.jp
吉田 茂美	ぶれいす東京		169-0075	新宿区高田馬場4-30-23-203	03-3361-8964		03-3361-8835	ptokyo@gender.ne.jp
野坂 裕子	お茶の水女子大学生生活科学部無藤研究室	大学院生	112-8610	文京区大塚2-1-1	03-5978-5783		03-5978-5783	BZF20665@nifty.ne.jp
笠原 敏彦	国立国際医療センター	医長	162-8655	新宿区戸山1-21-1	03-3202-7181		03-3208-4244	
中田 潤子	国立国際医療センター	技官	162-8655	新宿区戸山1-21-1	03-5273-5418		03-3208-4244	
高野 操	国立国際医療センター	研究員	162-8655	新宿区戸山1-21-1	03-5273-5418		03-3208-4244	
岡 慎一*	国立国際医療センター エイズ治療・研究開発セン	部長	162-8655	新宿区戸山1-21-1	03-3202-7181		03-3208-4244	



# 目次

主任研究者全体総括：平成10年度「HIV感染症の疫学研究」研究総括	木原正博	1
グループ要約1：(将来予測)		12
グループ要約2：(国内疫学情報解析)		14
グループ要約3：(国際疫学情報解析)		16
グループ要約4：(医療情報解析)		19
グループ要約5：(HIV患者/AIDS感染者Ⅰ)		21
グループ要約6：(HIV患者/AIDS感染者Ⅱ)		23
グループ要約7：(MSMⅠ)		24
グループ要約8：(MSMⅡ)		27
グループ要約9：(滞日外国人)		28
グループ要約10：(IDUⅠ)		30
グループ要約11：(IDUⅡ)		32
グループ要約12：(STDクリニック受診者Ⅰ)		33
グループ要約13：(STDクリニック受診者Ⅱ)		35
グループ要約14：(風俗関連施設等顧客)		38
グループ要約15：(血清・遺伝子疫学)		39
グループ要約16：(献血・妊婦等)		41
グループ要約17：(母子感染)		43
グループ要約18：(行動科学Ⅰ)		46
グループ要約19：(行動科学Ⅱ)		48
グループ要約20：(カミングアウト体制)		50
将来予測グループ総括：HIV感染者数とAIDS患者数の 将来推計将来推計に関する研究	橋本修二・他	53
国内疫学情報解析グループ総括：わが国のHIV/AIDSに関する疫学情報の解析	中村好一・他	68
1. エイズサーベイランスにおける報告票様式の提言	中村好一・他	70
2. わが国におけるHIV/AIDSに関するテレフォン調査	中村好一・他	73
3. エイズサーベイランス報告に基づく外国国籍者、死亡報告 に関する研究	松山 裕・他	81
4. 特徴的症状の分布：東京都における エイズ発生動向調査報告から	城所敏英・他	89
5. わが国におけるエイズ死亡の実態	中村好一・他	94
医療情報解析グループ総括：HIV感染症の医療費に関する研究	木村博和・他	108
国際疫学情報解析グループ総括：国際疫学情報の解析に関する研究	鎌倉光宏・他	119
HIV患者/AIDS感染者Ⅰグループ総括：わが国におけるAIDS症例およびHIV感染者の臨床疫学 と追跡調査	松本孝夫・他	142
HIV患者/AIDS感染者Ⅱグループ総括：HIV感染者/AIDS患者の行動疫学的研究	松田重三・他	164
MSMⅠグループ総括：関東および関西地区における男性同性間の HIV感染に関する研究	市川誠一・他	171
・厚生省エイズ発生動向調査における男性同性間 感染の分析	市川誠一・他	186
・定点医療・検査機関におけるサーベイランス	市川誠一・他	193

・男性と性行為を行う男性におけるセーフセックスの 実行/非実行に影響を及ぼす要因に関する研究	砂川秀樹・他	200
・男性同性愛者におけるHIV/AIDSについての知識・ 性行動と社会・文化的要因に関する研究	風間 孝・他	208
・日本人ゲイ男性の生育歴とセフ・エスチュムおよび 性行動に関する研究	日高庸晴・他	219
・アメリカ主要都市に在住する日本人男性同性愛者 の性行動調査	鬼塚直樹・他	227
MSMIIグループ 総括：東海地区居住MSM集団におけるHIV感染に関する 血清疫学ならびに行動調査		
	磯村思无・他	233
滞日外国人グループ 総括：滞日外国人の HIV、STD 関連知識、行動及び 予防・支援対策に関する研究		
	木原正博・他	236
・在日ラテン系外国人におけるエイズ関連の知識・情報 及び態度・行動に関する予防介入研究	岩木エリサ・他	243
・滞日タイ住民のエイズに関する知識・意識・ 性行動の調査	ニコ・ジツタイ・他	251
・新宿保健所の外国人に対するHIV抗体検査・ エイズ相談事業	早川和男・他	258
・AMDA国際医療情報センターの電話における HIV関連相談の動向	小林米幸	261
・滞日ミャンマー人のHIV/AIDS問題に関する研究と在日 南米人のMSMのエイズに関するKAP調査の予備的研究	沢崎 康	263
・売春常習者（特に来日外国人）におけるHIV感染および 各種STD感染の実態調査	田口誠治	267
I D U Iグループ 総括：薬物乱用・依存者におけるHIV感染の実態とハイリスク 行動についての研究		
	和田 清・他	269
I D U IIグループ 総括：薬物乱用者集団におけるHIV疫学調査		
	大橋秀夫	283
STDクリニック受診者Iグループ 総括：本邦におけるSTDとHIV/AIDSとの疫学的 関連性の検討		
	熊本悦明・他	284
STDクリニック受診者IIグループ 総括：STDクリニック受診者の性行動に関する研究		
	大里和久・他	299
・STDクリニック受診者の性行動に関する横断研究	木原雅子・他	311
風俗関連施設等顧客グループ 総括：風俗関連利用者に関する研究		
	大山泰雄・他	318
血清・遺伝子疫学グループ 総括		
	今井光信・他	324
・大阪府におけるHIV感染の疫学に関する研究	大石 功・他	340
・東海地区におけるHIVの分子疫学	森下高行・他	346
・福岡県におけるHIV-1の分子疫学	千々和勝己・他	348
・都立駒込病院受診HIV感染者の疫学研究	飯田暢子・他	352
・インド北部におけるHIVの分子疫学的研究	山本直彦・他	367
・HIVの重感染と組換えウイルス特にグループ0を含む 三重感染例とその組換えウイルス	速水正憲・他	370
・日本人集団におけるCCR-5遺伝子制御領域の変動頻度	塩田達雄・他	377
・日本人血友病患者のHIV感受性の検討	園田俊郎・他	381

献血・妊婦等グループ 総括：一般集団におけるHIV感染のモニタリング成績	清水 勝・他	385
・医療機関内のHIV感染のモニタリング	清水 勝・他	401
・北海道の献血集団における献血時の問診とHIV関連検査 及び自己申告状況の分析	関口定美・他	403
・各種集団におけるHIV感染のモニタリングと 標準管理血清の抗HIV抗体状況に関する研究	鈴木達夫・他	415
・各種集団、妊婦におけるHIV感染のモニタリング	吉澤浩司・他	426
・献血者集団における自己申告とHIV感染について	高橋有二・他	431
・中部地域献血者集団におけるHIV抗体陽性率の推移 とその分析	神谷 忠	436
母子感染グループ 総括：母子感染に関する研究	喜多恒和・他	440
行動科学Ⅰグループ 総括：日本人の性行動と性意識についての全国確率サンプル・ サーベイ実施のための予備調査と分析	広瀬弘忠・他	458
行動科学Ⅱグループ 総括：各種社会グループのHIV/AIDS関連知識・性行動・ 性意識に関する研究	木原正博・他	492
カウンセリング体制グループ：カウンセリング体制の現状把握と充実に関する研究	兒玉憲一・他	525
・地域における直接的支援とカウンセリング体制に 関する研究：HIV陽性者によるカウンセリング等への認知 および評価について	池上千寿子・他	531
・HIV感染者・エイズ患者の心理・社会的援助に関する 医師の意識とカウンセリングの利用に関する研究	山中京子・他	559
・HIV/AIDS患者のメンタルヘルスにおける コーディネーターの役割に関する研究	石原美和・他	582
・HIV/AIDSカウンセリング体制の構築に関する調研究	山形操六・他	587
特別研究：経口避妊薬（ピル）についての知識・意識に関する 全国横断調査	木原雅子・他	599
・DISPROPORTIONAL IMPACT OF HIV INFECTION ON BLOOD SAFETY IN JAPAN	木原正博・他	607
国際セミナー：HIV/AIDS関連の行動サーベイランス	Kippax S・他	621
・第9回国際ワークショップ抄録集		628
・HIV/AIDS Surveillance : Current Situation and Future Perspectives		
・母子感染ワークショップ抄録集		762
・Progress in preventing vertical transmission of HIV in the USA		
(付録) HIV/AIDSサーベイランス年報		767

## 平成 10 年度「HIV 感染症の疫学研究」研究総括研究報告

主任研究者: 木原正博(神奈川県立がんセンター臨床研究所)

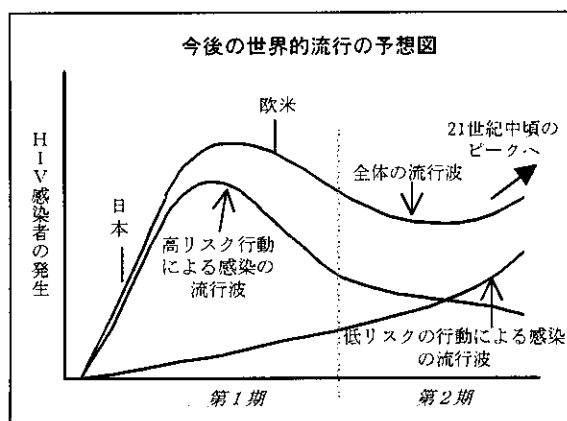
グループ名	分担研究者名	所属
将来予測・推計	橋本 修二	東京大学医学部健康科学
国内疫学情報解析	中村 好一	自治医科大学公衆衛生学
国際疫学情報解析	鎌倉 光宏	慶應義塾大学医学部衛生公衆衛生学教室
医療情報解析	木村 博和	横浜市立大学医学部公衆衛生学教室
患者・感染者 I (臨床疫学)	松本 孝夫	順天堂大学医学部総合診療科
患者・感染者 II (行動科学)	松田 重三	帝京大学医学部内科
MSM I (東京等)	市川 誠一	神奈川県立衛生短期大学衛生技術科
MSM II (中部地方)	磯村 思无	名古屋大学医学部医動物学
滞日外国人	木原 正博	神奈川県立がんセンター臨床研究所
薬物乱用・依存者	和田 清	国立精神・神経センター精神保健研究所
STD 患者 I (血清疫学)	熊本 悦明	札幌医科大学医学部泌尿器科
STD 患者 II (行動科学)	大里 和久	大阪府立万代診療所
風俗関連施設等顧客	大山 泰雄	新宿区衛生部 兼) 新宿保健所
血清・遺伝子疫学	今井 光信	神奈川県衛生研究所ウイルス部
献血者・妊婦等	清水 勝	東京女子医科大学輸血科
母子感染	喜多 恒和	防衛医科大学校病院分娩部
行動科学 I (全国調査)	広瀬 弘忠	東京女子大学文理学部心理学
行動科学 II (各種集団)	木原 正博	神奈川県立がんセンター臨床研究所
カウンセリング体制	兒玉 憲一	広島大学保健管理センター

### 【緒言】

#### わが国の HIV 流行の見通し

HIV 感染の世界的流行 (パンデミック) は、大きく 2 つの流行波を要素として進行すると予測されており、第 1 波は、行動リスクの高いグループ、すなわち同性間性行為や静注薬物使用による鋭く小さな流行波で、第 2 波は異性間性行為による極めて大きな流行波である (右図) である。すでに、同性間性行為や静注薬物使用による感染が鎮静化しつつある欧米諸国は、第 1 波から、第 2 波への移行期にあると考えられ、アフリカ・アジア諸国では、当初から事実上第 2 波の流行に突入し、極めて大規模な流行に見舞われている。これまでの情報を総合すると、わが国の流行は、まだ第 1 波にさしかかったばかりと考えられるが、社会的関心が薄れる一方で、HIV 感染者の

prevalence が増え、ピル解禁を迎え、しかも抑制に資する材料が皆無に等しい現在の状況がこのまま続けば、わが国は、深く 21 世紀にピークを持つと予測される第 2 の流行の波に不可避免的に引きずり込まれていくことになる。



## HIV 疫学研究の役割

この様な状況の中、わが国の疫学研究が果たすべき役割は大きい。その第一は、厚生省エイズ動向調査（エイズサーベイランス）の限界を補って、より正確でリアルタイムの流行状況に関する情報を国民に提供すること、第二は、わが国の HIV 流行を拡大させる要因を科学的に明らかにすること、第三に、将来予測を含め HIV/AIDS のわが国社会・経済に対するインパクトの大きさを正確に見積もること、そして、第四は、有効性がエビデンスに裏打ちされた (evidence-based) 予防対策モデルや政策を開発し提示していくこと、である (下図)。

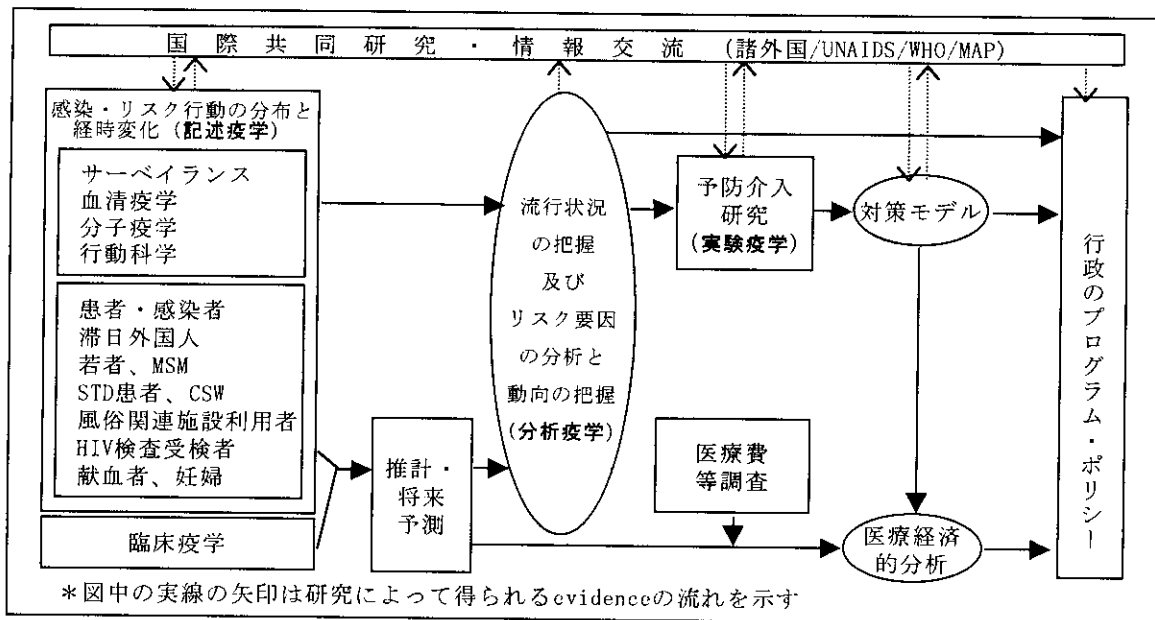
## HIV 疫学研究の戦略

研究に際しては、以下の 5 点に特に留意が必要と考えられる。その第一は、極力サンプルの代表性の確保、定点の安定性、サンプル数の確保に努め、わが国の状況と動向をより妥当性高く反映するデータを収集すること、第二に、わが国では HIV 流行がまだ低率 (low prevalence) であるため、研究効率の観点からも、また実効的な予防対策へとつなげる意味からも、HIV 感染のみならず HIV 感染の“リスク”に研究の比重を置く必要があるため、性行動と性感染

症 (STD) の研究に高いプライオリティを与える必要があること、第三は、HIV への脆弱性 (vulnerability) の高い存在 (性行動リスクの高い同性愛者と異性愛者、移民、セックスワーカー、若者など) に焦点を当てた研究内容とし、それにふさわしい研究体制を構築すること、第四は、欧米や流行国に蓄積された経験・方法論を急速に吸収すること、第五は、単なる欧米の模倣ではなくわが国固有の研究条件と予防の条件を見出していくこと、である。

## HIV 疫学特有の困難

しかし、HIV/AIDS の研究には、研究一般に伴う問題に加えて、HIV/AIDS に固有の困難が伴う。それは第一に、HIV 感染者・AIDS 患者、男性同性愛者、滞日外国人などに対する差別・偏見の存在や長い潜伏期間などのために、HIV 感染が意識的・無意識的に潜行しやすく把握が困難であること、第二に、HIV 感染の主な原因となるのが性行為という微妙な人間行動であることや、買売春、薬物使用、不法滞在などに伴う非合法性の問題のために、対象者に対する調査研究のアクセスが難しいこと、第三に、従来の保健医療研究が無意識に前提としてきた、調査者と被調査者間、つまり保健



医療従事者と患者間の“力関係”、“信頼関係”が HIV/AIDS の研究の場では必ずしも通用せず、研究をするにあたっては調査者と被調査者間のパートナーシップの構築から始めなければならない場合があること、第四に、研究の領域が従来の保健医療研究の枠組みを大きく超えるために、研究に必要な社会科学的方法論の蓄積が、わが国の疫学研究の分野では希薄であること、などである。

### 本年度の主な研究動向

こうした事情から、本研究班の研究では、前研究班の時代をも含めて、様々な試行錯誤が繰り返されてきたが、次第に研究は方法論の面でも、研究体制の面でも、また研究成果の面でも成熟に向かいつつある。本年度に特筆すべき研究の動向としては、①欧米研究者との交流によって行動学的研究の方法論の蓄積が進み、具体的研究が開始されたこと、②知識・行動面の調査に用いる質問表 (instrument) の標準化が進んだこと、③MSM 研究において研究者、行政、コミュニティが参加する研究母体 (通称 MASH) の構築が進展したこと、④初めての quasi-experimental デザインの予防介入研究が滞日ブラジル人コミュニティを対象に実施され、予防介入研究への動きが本格化したこと、⑤滞日タイ人の研究が、従来の CSW 研究の枠を乗り越えて、community-based の研究へと進展したこと、⑥国際比較によって、わが国の献血血液の HIV 抗体陽性率の異常性を証明し、わ

が国の HIV 対策の歪みを明らかにしたこと、⑦全国的な研究体制の構築が進み、母子感染研究等でのデータ収集が進んだこと、⑧国際ワークショップの開催を通じて、研究者との国際的ネットワークの構築と情報交流が進んだことなどがあげられる。

また、政策提言の一環として、血液の安全性対策の緊急の強化の必要性を認めて、「健康危険情報」を、平成 10 年 10 月 14 日付けで資料とともに厚生省健康危機管理調整官に提出した。

### 【研究体制と内部評価】

それぞれ研究内容の異なる 19 グループ (班員総数は約 150 名) の体制で研究を行った。各グループは、必要に応じて、複数のサブグループで組織されている。

研究内容の適切性と科学性を高めるために、研究班に研究協議会 (顧問、アドバイザー、及びグループ長で構成) を置き、3 月初頭に開催した研究発表会では、顧問とグループ長が各グループの研究発表の評価にあたり、研究方法の妥当性、研究チームの構成、研究成果の重要性、研究の発展性、そして、研究成果のコミュニケーションを促進する意味で、プレゼンテーションについても無記名で厳格に採点評価した。こうした内部評価の導入によって、初年度に比べて、研究およびプレゼンテーションの質に大きな前進が見られるとともに、研究グループ間の相互理解が進み、次年度に向けてのグループ間の共同研究の機運が高まることとなった。

### 【各研究グループの研究手法と主な研究成果】

研究グループ	主な目的/方法	主な研究成果
将来予測・推計 (橋本修二)	エイズサーベイランスデータの解析に基づく将来予測・推計を全国およびブロック別に実施。	HIV/AIDS の新しい推計値と予測値を算出し、旧推計・予測 (1995 年実施) を大幅に上方修正した; HIV 感染者の時点有病数は 1998 年末で 8,000 人、2003 年末で 16,100 人、AIDS 患者の累積数は、1998 年末で 1286 人、2003 年で 4,200 人と推計した。近年、わが国の流行は加速している。

国内疫学情報解析 (中村好一)	デルファイ法に基づく、将来予測調査の実施。第9回国際疾病分類導入以降の人口動態統計によるエイズ死の分析。	サーベイランス情報を補完する調査研究を実施;①人口動態統計の分析では、サーベイランスを補完する情報は得られないことを明らかにし、かつ②デルファイ法によりHIV感染症の予後に及ぼすプロテアーゼ阻害剤使用の影響を推定した。③新感染症下のサーベ報告様式を提言。
海外疫学情報解析 (鎌倉光宏)	国際的な疫学情報源を収集・分析。国際ワークショップを開催し、サーベイランス方法の相互比較と問題点の検討を実施した。	国連合同エイズ計画との合同ワークショップを開催し、三剤療法導入下で西欧諸国のサーベイランスが直面している困難、case identifierの採用の有無など方法論面での相違など、有用な情報を収集・分析した。
医療情報解析 (木村博和)	レセプト調査を実施。な治療方法の変化を考慮しつつ、わが国のHIV/AIDS関連医療費の推定と将来値の推算を行う。	三剤併用療法開始前は、CD4 数 $\geq 500$ で2,000点/月、 $200 < CD4 < 500$ で5000点、 $\leq 200$ で7,000点であったのが、開始後はCD4の値に関わりなく、21,000点/月と大幅に上昇したことを示した。
感染者/患者 I (松本孝夫)	都内医療機関のHIV/AIDS患者について、属性、感染経路、病期、感染地、日和見感染、治療方法、予後等に関する継続的情報収集と分析。	1985年以来登録された約800の非血友病症例をフォローアップ調査し、AIDS発症例の予後の改善、指標疾患の分布の変化(カリニ肺炎の減少、非定型抗酸菌増加)を明らかにした。
感染者/患者 II (松田重三)	患者/感染者のパートナーシップについての行動科学的調査。	90症例につき調査し、半数がたまたまの検査で陽性と判明していること、多くが感染相手を特定できず、不特定の相手とは無防備の性交をする傾向のあること、医師のカウンセリングが感染者の性行動に大きな影響を持つことを示した。
MSM I (市川誠一)	研究者-NGO-行政のパートナーシップに基づき、主要都市の同性愛者の、感染率調査、性行動調査、予防介入研究を実施し、効果的対策モデルを開発・評価する。	①サーベデータを出生コホート別に分析し、若年層のMSM例の増加を示した。②東京、大阪で、研究者-NGO-コミュニティの合同研究組織(MASH)を組織し、介入研究に向けて前進した。 ③性行動調査(N>300)では、フェラチオではほとんどコンドームが使われないこと、肛門性交では、相手がcasualの場合は高いが、regularでは1/3が未使用であること、2-3割近くがHIV検査受検経験があることを示した。
MSM II (磯村思无)	東海地区の一部のバスハウスを利用する同性愛者を対象に、HIV/STDsの検査及び性行動などに関する調査を継続実施する。	感染率は依然低い(1/84)が、両性愛が約20%、毎月2-5人の不特定相手との性交のある者が約50%、コンドームなしの肛門性交を行う者が約22%いるなどの実態を明らかにした。

滞日外国人 (木原正博)	滞日ブラジル人の第一次予防介入研究を完了し、新聞広報による知識、性行動への効果を検証する。滞日スペイン語系及びタイ住民の第一次予防介入研究のベースライン調査を実施する。	新聞による広報の効果が、集団の一部にしか浸透せず、しかも一部の情報しか uptake されないことを示し、新聞広報の限界を検証した。滞日タイ人の研究では、初めて一般住民の community-based の知識・性行動調査を実現した。
薬物乱用・依存者 (和田清)	全国の薬物中毒治療施設のネットワークを構築し、薬物使用者の HIV/STD/肝炎の検査や針刺し・性行動及び HIV 感染率を継続的にモニタリングする。	年間 500 の新患者をモニタリングできる IDU 入院患者の全国サーベイランス網を確立。過去 1 年の回し打ち経験が 25% と高率なこと、HCV は 1/2 が陽性(HIV は陰性)であること、風俗の利用度が高いことを示した。本年度は IDU 自助グループでの行動調査に初めて成功した。
STD クリニック受診者 I (熊本悦明)	全国の STD 医療機関ネットワークにより、STD 患者の HIV/STDs 抗体陽性率を経年的にモニターする。	全国約 2000 例の症例から、昨年度に続き 3 例の HIV 陽性者を確認。耐性淋菌の拡大を示すデータを確認。また、東南アジアの検体の分析から HIV 感染と STD 感染の強い相互作用を示すデータを得た。
STD クリニック受診者 II (大里和久)	STD クリニック受診者の行動科学調査を実施する。	大阪の某クリニックの十数年の性行動調査をデータベース化し、性交パターンの変容、コンドームによる STD 予防効果を証明した。また、大阪、関東、九州で 502 人を調査し(回収率>90%)、過去 1 年に 50% が買春し、オーラルセックスが特に無防備で、性モラルの二重規範の傾向が強いことを示した。
風俗関連施設等利用者 (大山泰雄)	国民の 1/3、若者の 1/2 が異性間性行為の場として利用するラブホテルでの廃棄物を調べ、コンドーム使用率、体液の HIV 抗体陽性率を経年的に観察する。	3 年間の継続調査によりラブホテルでのコンドーム使用率が、ほぼ 50%であることを確定。コンドーム破損率(使用時 0.27%)に関するわが国初のデータを得た。HIV 抗体陽性率はゼロ(n=1577)であった。また、次年度の無作為予防介入試験の準備を完了した。
血清・遺伝子疫学 (今井光信)	全国地衛研ネットワークにより、保健所の HIV 検査の動向をモニターし、全国の保健所及び献血の陽性検体について分子疫学的モニタリングを行う。	保健所検査者の陽性率が特に夜間検査所で上昇していること、日本人の HIV-1 のサブタイプは、同性間で B、異性間 E、献血陽性者で B であること、献血陽性者の STD 感染率が非常に高いことを示した。
献血者・妊婦等 (清水 勝)	献血者、入院患者、妊婦等の HIV 抗体陽性率を経年的にモニターする。妊婦については全国的規模のサンプリングを追求する。	献血血液の陽性率は全国で 10 万対 0.9 で前年レベルであったが、首都圏が減少し、地方拡散傾向が強まったことを確認した。妊婦でも昨年引き続き陽性例の出現を確認した。



母子感染 (喜多恒和)	感染妊婦の出産に関する全国調査を実施してデータベース化し、母子感染のリスクファクターについての臨床疫学的分析を行う。	全国 1821 ヶ所のアンケート調査 (回収率 70%) で 161 例の感染妊娠を確認し、112 例について詳細な臨床情報を得て解析した。その結果、「AZT 投与+帝王切開」で母子感染が 2%に減少することが示唆された。
行動科学 I (広瀬弘忠)	科学的にデザインされ、かつ国際比較可能な全国性行動調査を実施する (Sex in Japan Project)。本年度は、feasibility に関する第 2 回目の予備調査を実施する。	予備調査で 71%の回収率を得、報償額の確定、調査員の訓練、調査票の修正を終えた。欧米諸国と比し、パートナー数は同等、性交頻度は少なく、買春が高率という欧米とアジアの中間的な日本の性行動の実像が浮かび上がりつつある。
行動科学 II (木原正博)	様々な社会集団における性行動を調査し、性行動リスクの分布を調べ、将来的には、行動変容のための予防介入研究をデザイン、実施する。	①全国国立大学生の調査を準備企画し、約 3 万人の調査が可能となった。②某男性職種集団を調査し、性行動・性意識が STD 患者並みであること、ピル解禁への期待が非常に高いこと、オーラルセックスによる STD 感染の危険に関する認識が非常に低いことを明らかにした。
カウンセリング体制 (兒玉憲一)	HIV カウンセリング体制のアクセサビリティを向上する方策や精神症状を有する患者の支援策、専門カウンセラー養成方法の検討。	カウンセリング資源を有効に利用するための、コーディネーター的機関の設置、ネットワークの構築の必要性、カウンセリング利用の決定権が患者にあることへの認識を医師に徹底させる必要性、精神科の役割の積極的検討の必要性を明らかにした。専門カウンセラー養成カリキュラムを検討した。
特別研究	(1)献血血液の HIV 抗体陽性率に関する国際比較研究 (2)ピルに意識・知識に関する全国横断調査	(1) 国際比較により、日本の献血血液陽性率は、流行度に比し、異常に高いことを示した。  (2)全国 2000 人のランダムサンプリング調査により、女性より男性にピル解禁の期待が高いこと、ピルがエイズ、STD の予防にならないことへの認識が弱いことを示した。

### 【考察】

(文中、[氏名 G]は、本研究班のグループ長名で、本  
年度報告にその内容が含まれていることを示す)

#### (1) 研究成績が示唆するわが国の感染状況と 必要な対策

##### HIV 感染流行は依然拡大局面にある

厚生省エイズサーベイランスに報告される HIV 感染者の増加が続き、国内を舞台とした日本人男性を中心とした流行の拡大と

が示唆されているが、本研究班の成績も、依然流行の拡大局面が続いていることを示している。例えば、推計・予測研究[橋本 G]では、HIV 感染者数は、1998 年末で 8,000 人、2003 年末で 16,100 であり、1995 年に実施された 2000 年の予測値 7430 を大幅に上方修正するものとなり、流行が以前の予測を上回る速度で広がっていることを示唆している。

HIV 抗体陽性率の推移を見ても、献血検体の陽性率が上昇し、全国平均は昨年以來

ほぼ 10 万対 1 となった[清水 G]、また保健所検体の陽性率も、昨年以来 10 万対 220-230 のレベルまで上昇 (1992 年の約 5 倍) している[今井 G]。そして、これまで、陽性者の検出されなかった STD クリニック受診者にも 1997 年度以来陽性者が観察されるようになり[熊本 G]、妊婦も 1995 年まではゼロであったが、1996 年以降陽性者が検出されるようになってきている[清水 G]。これらの成績は全て、未だ諸外国に比べて低率とは言え、わが国の HIV 流行が一般集団の間にも拡大しつつあることを示すものと考えられる。

#### 増加する行動リスクとそのポテンシャル

行動面を見ても、HIV 感染リスクは、依然高いポテンシャルを維持し、かつさらに増大する可能性が示唆されている。性行動については、例えば、厚生省の性感染症サーベイランスでは、先進国では例外的に、淋病とクラミジア感染が急速に増加しつつある[熊本 G]。また、研究班の以前 (1996 年) の成績で、ハッテン場での同性間性行為が非常に高い感染リスクに曝されていることを示唆するデータが報告されているが<sup>3</sup>、本年度の報告では、同性間では相手の親密度が高いほど safer sex が緩む傾向があり、コンドーム使用のさらなる徹底の必要性が示唆された[市川 G]。異性間性行為でも、ラブホテルにおけるコンドーム使用率は 50%程度と見積もられ[大山 G]、また以前の性行動調査<sup>4</sup>からも無防備な性行動が少なからぬ頻度で存在することが示唆されているが、とりわけ懸念されるのは、間近に迫ったピル解禁であろう。以前の我々の大学生調査<sup>5</sup>でコンドーム使用理由の約 80%近くが、避妊のみであることを示したが、本年度実施した 20 歳以上の国民に対する全国横断調査[木原、特別研究]では、女性よりも男性の方が解禁を待ち望んでいる傾向が強いこと、国民の約 1/4 がピルが HIV や性感染症の予防に役立たないことを認識できて

いないことが明らかとなり、ピル解禁は、ピルに関する正しい知識の徹底や safer sex 教育の推進などの対応策が担保されなければ、無防備な性行動の“解禁”につながる危険をはらんでいることが示唆された。また、本年度は、予備研究として、ある男性職種集団の性行動調査を実施したが、性行動、性意識が STD 患者と極めて類似していること、ピル解禁への期待度が極めて高いことなどが明らかとなり、1 例ではあるが、性行動リスクの非常に高い集団が存在することが明らかとなった。こうした集団をターゲットとして、予防啓発を行っていくことが今後の戦略として重要となろう。一方、若者についても、その性行動が近年急速に活発化していること<sup>6</sup>、また、若い妊婦や中絶者ではとりわけ STD の感染率が高いこと<sup>7</sup>を考えれば、教育の場での若者への HIV/STD 予防教育も極めて重要であろう。一方、注射薬物使用については、幸い HIV 感染率はまだ極めて低いレベルにあるが、C 型肝炎の蔓延や、過去 1 年間に注射の回し打ちが依然半数近い注射薬物使用者で行われているという憂慮すべき事実[和田 G]が明らかにされており、正に一触即発というべき状態にある。東南アジアでは、僅か数ヶ月間に感染率が数十パーセントにまでに上昇したことは周知の事実であるが<sup>1</sup>、そのような“歴史”をわが国が繰り返すことがない様、近年薬物使用が増加しつつあるといわれる若者に対する啓発活動が緊要である。注射薬物使用者は、また性行動も活発であり[和田 G]、bridge population となる可能性からも啓発の重要性が特筆される。

#### 拡散傾向を見せる HIV 流行

サーベイランス報告は、異性間感染は関東甲信越地方、同性間感染は、東京都とかなり地域的な偏りがあり、その傾向は現在も変わらないが、サーベイランス報告では、過去 2 年間に関西地方での報告が急増し、献血血液の陽性率も、1997 年以降、関東以

外の地方で上昇するなど[清水G]、流行が全国的に拡散する兆候が現れている。

### 高まる輸血血液の危険性

このような状況の中で、輸血血液の安全性が脅かされている。最近わが国でも、国内での輸血血液による感染例が報告されたが、献血血液の全国的な陽性率の増加は、その輸血による感染リスクの上昇を示唆しており、特に昨年度の本研究班の研究で、ウィンドウ期間（抗体上昇前）の血液が600万検体中、6-7検体存在したという推定値は、その危険を直接示唆するものとして極めて重要な成績であった。献血血液の陽性率は、ヨーロッパ諸国で低下を続け、わが国で逆に上昇を続ける中、1997年には遂にヨーロッパ諸国の中央値とわが国の全国平均が等しくなったが、献血の陽性率を推定国民感染率（UNAIDSのデータ）で除した指数は、わが国はヨーロッパ諸国の十倍近くにも及び、わが国献血血液陽性率の異常性が浮き彫りとなった[木原、特別研究]。リスクの高い献血者を排除するための問診の強化も必要であろうが、それ以上に、献血を利用しなくても済むよう、受け得やすい検査機会を積極的に拡大するという戦略が重要である。たとえば、東京都の南新宿検査相談所では、保健所が全国的に一斉に検査数を減らす中、唯一1993年の開設以来ほぼ同じ検査件数を維持しているが[市川G]、これには検査時間(15:00-20:00)と駅に近いという利便性が重要な要因となっていると思われる。このような受診者の便宜に配慮した検査機会の拡大や、他のHIV/AIDS流行諸国で行われているような、様々なコミュニティと共同した、より現場に密着した検査機会の創設が可及的速やかに検討し、実施される必要がある。

### 外国人コミュニティへの対策の必要性

昨年度のラテン系住民の調査で、保健所の無料匿名検査は、20%の人に知られてい

るに過ぎないことが明らかになった。これは同時に調査された日本人の3分の1以下であり、ラテン系住民がわが国の社会で情報弱者の状態に置かれている実態が伺われた。また、とりわけ重要であったのは、HIV陽性とわかると、解雇あるいは国外追放という不安を抱いている人が相当いるという事実であった（注：実際に解雇され係争中の例もある）。検査に伴う不利益への不安が、検査行動のを妨げ、ひいてはHIV予防を妨げることはよく知られた事実である<sup>1</sup>。

厚生省エイズサーベイランスに報告される感染者・患者数の中で、南アメリカ系の外国人は絶対数で3位（1位日本人、2位東南アジア系）<sup>9</sup>を占めているが、これは、南アメリカにおけるHIV/AIDSの蔓延を考えれば想像に難くないことであり、わが国のブラジル人コミュニティの中での状況も楽観を許さない。“出稼ぎ”に来ている在日ラテン系住民は、現在国内で約30万人に達するが、問題の大きさは、数の問題だけにとどまらない。重要なことは、その多くは合法的に滞在している人々であり、しかも、母国の日系社会から集団移動にも等しい状況で移民してきているという事実である<sup>10</sup>。こうした事情から、母国では日系人が日本で置かれた状況は、日本社会が想像するよりはるかに大きな重みを持って受け止められており、大きな足元の国際問題と認識し、相応の対策を講じていかなければならない。

対策という観点からは、本年度は、3年がかりで準備してきた滞日ブラジル人に対する第一次予防介入研究が完結した年となった[木原G]。滞日ブラジル人社会の最大のエスニックメディア（新聞）の破格の協力を得て、大々的にかつ長期間実施したものであったが、効果は極めて限定的であることが判明した。その詳細な分析に基づき、現在第二次介入用のさらに効果的な予防介入をデザインしつつあるが、こうした試みは、evidence-basedの対策開発への試みとして普遍的重要性を持っている。つまり、

この研究成績に照らせば、日本人社会で年に1回ほどイベント的に行われるキャンペーンなどは実は効果の乏しいものである可能性もあるのという意味において。

また、本年度は、滞日タイ人について、community-based の面接調査を数ヶ月を費やして実施した[木原G]。これは、従来のタイ人研究が CSW 研究に偏っていたことから考えれば、大きな前進であった。この研究から、滞日タイ人がやはり、日本からの情報から疎外されていること、男女を問わず性行動リスクが高いことが示唆され、外国人向け対策の遅れと必要性を改めて示唆するものとなった。また、本年度は、滞日ミャンマー人のエイズ医療の問題に関する研究が探索的に実施されたが、人道的観点からもまた公衆衛生的観点からも、外国人を包括する保健医療体制の整備の必要性が示唆された[木原G]。

#### 予防啓発活動の再活性化と戦略

流行が拡大し、流行加速のポテンシャルの高い社会状況にあるにもかかわらず、社会的には問題が忘れられたかのような状態が続いている。ピル解禁を目前に控えた現在、マスメディアの報道も含めて、全面的な社会啓発の再活性化が必要なことは明らかであろう。例えば、上述したように、保健所での HIV 検査受検者が急速に減少し、そのしわ寄せが献血検査に及んでいるという構造が存在しているが、昨年度の我々の全国調査では、保健所の検査はまだ 2/3 の日本人に知られているに過ぎない。また、同じ調査で、STD（特にヘルペス、クラミジア）に関する知識が一般に低く、HIV と STD の相互作用についてはこれまでのキャンペーンで強調されなかったこともあって、その理解は他の知識の中でも最も低いレベルにあることが示された。また、本年度の研究[木原G]で、口腔へ STD が感染すること、あるいは口を介して STD に感染するこ

とへの認識が低い事実も明らかとなっており、STD が HIV 感染を促進する事実、及び、過去 15 年間に日本人の性行動に占めるオーラルセックスの比重が著しく増加したこと[大里G]を考えれば、こうした知識のギャップを早急を埋めることが求められる。そして、限られた資源を有効に活用するためには、十分な調査に基づいて、行動リスクの社会的分布を把握した上での、重点的とり組みが必要であり、同時に、本年度の滞日外国人研究や一昨年の MSM 研究<sup>8</sup>で行われたように、その効果を客観的に評価して行くアプローチが不可欠である。また、一方通行的な情報提供型のアプローチだけではなく、条件の許すところでは、例えば、市川らが試みているような、コミュニティと共同した予防啓発活動の開発と推進が図られる必要があるし、また様々なグループにおいて“ピア（仲間）リーダー”を育成することが予防啓発の戦略として検討されるべきであろう。

#### (2) 今後の研究の展開と課題について

平成 11 年度は、エイズの疫学にとって、いくつかの大きな変化が予期される年である。第一に、感染症新法が施行され、感染者・患者の届け出の義務に罰則が加わり、病変報告が任意となり、報告票が保健所から国立感染研へオンラインで送付されるなど、サーベイランスシステムが変化する。第二に、わが国でも、プロテアーゼ阻害剤の AIDS 発生率や死亡率に対する影響が明確化してくると思われる。第三に、ピルが解禁され、コンドーム使用率の低下など性行動に変化が始まる可能性がある。つまり、流行は促進するが、その測定である HIV/AIDS サーベイランスのシステムが混乱し、また測定の意味自身の変容する（注：AIDS 数の変化が、もはや過去の流行の様子を反映しなくなるという意味で）可能性があるということになる。